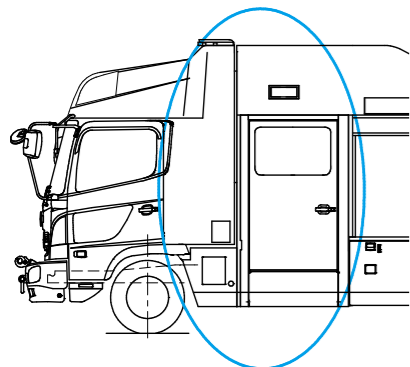


○ HXで採用しているニューキャビン方式を使うと、これまでにない多用途の車両の設定が、比較的容易に行えます。以下にその応用事例を紹介します。

(シャシの大きさにより、対応できない場合もあります)



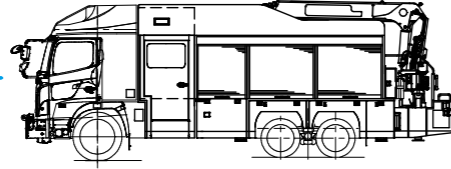
この部分の応用技術

○ この他にも、いろいろな車両に応用できます。ご不明な点は、営業担当者にご相談ください。

(イメージ)

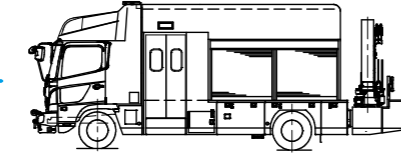
(参考写真)

「大型救工車」

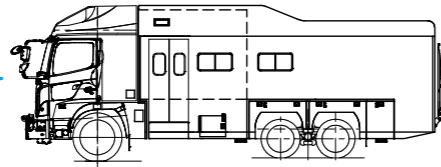


那覇市消防局 様

「ウォークスルー型救工車」

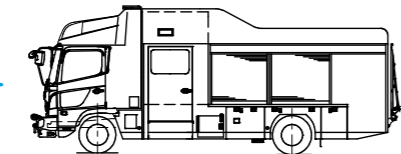


「大型支援車」

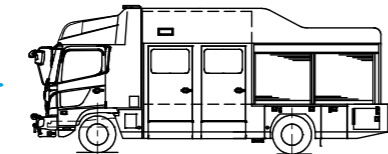


周南市消防本部 様  
※シャシは5.5トン車

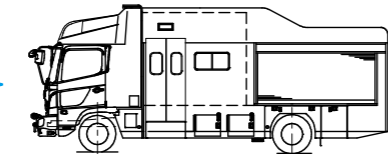
「後部キャビン打合せ室兼用型車両」



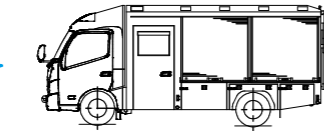
「トリプルキャブ型車両」



「水難救助車」

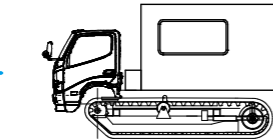


「IV型救工車」



さいたま市消防局 様  
※シャシは3トン車

「不整地走行車」



# TEISEN NEW TYPE RESCUE HX



 帝国繊維株式会社

本社 〒103-0027  
東京都中央区日本橋2丁目1番10号 柳屋ビル  
電話 03-3281-3032(代表) FAX 03-3274-6397

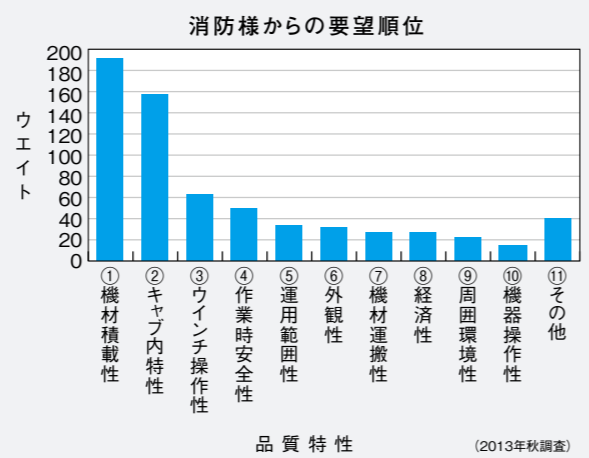
■ ニューキャビン方式

ダブルキャブにはない、  
広々とした空間と大量の収納が実感できます。

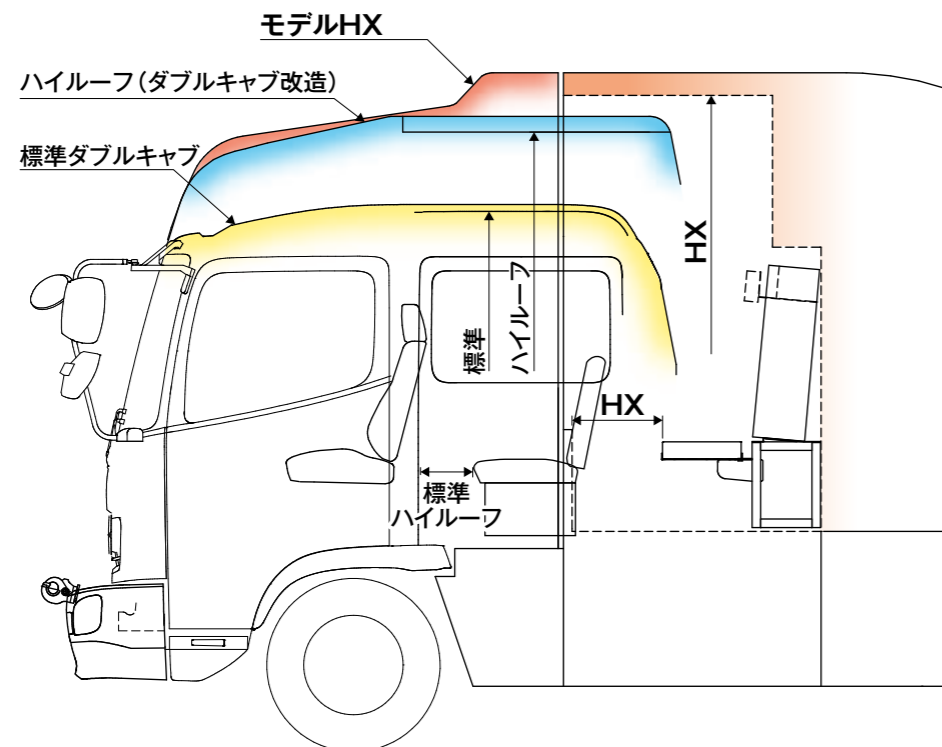
救助工作車は消防用ダブルキャブという、これまでの常識を覆し、隊長と機関員が座る前席はシングルワイドハイルーフキャブを使用し、隊員が座る後席は積載庫を前方に延長して隊員席を設けました。キャブバックと隊員席前の壁は大きく開口し、前後間での意志疎通も十分に図れるようになっています。横幅、天井高さも、これまでになく広くなり、長距離、長時間の活動に大きく寄与できます。

〔HXができた背景〕

2013年3月11日の東日本大震災後、全国各地の消防本部緊急援助隊が被災現場へかけつけ、救援活動を行いました。この時の経験から、右図に示すよう、キャブ内の問題が大きくクローズアップされました。この問題を解決するため、新しく開発された車両が、テイセン新型救助工作車モデルHXなのです。



○ 消防用ダブルキャブとの比較



## ■コンセプト

救助隊員の潜在要望<sup>※1</sup>の具現化

I 居住空間と環境の向上

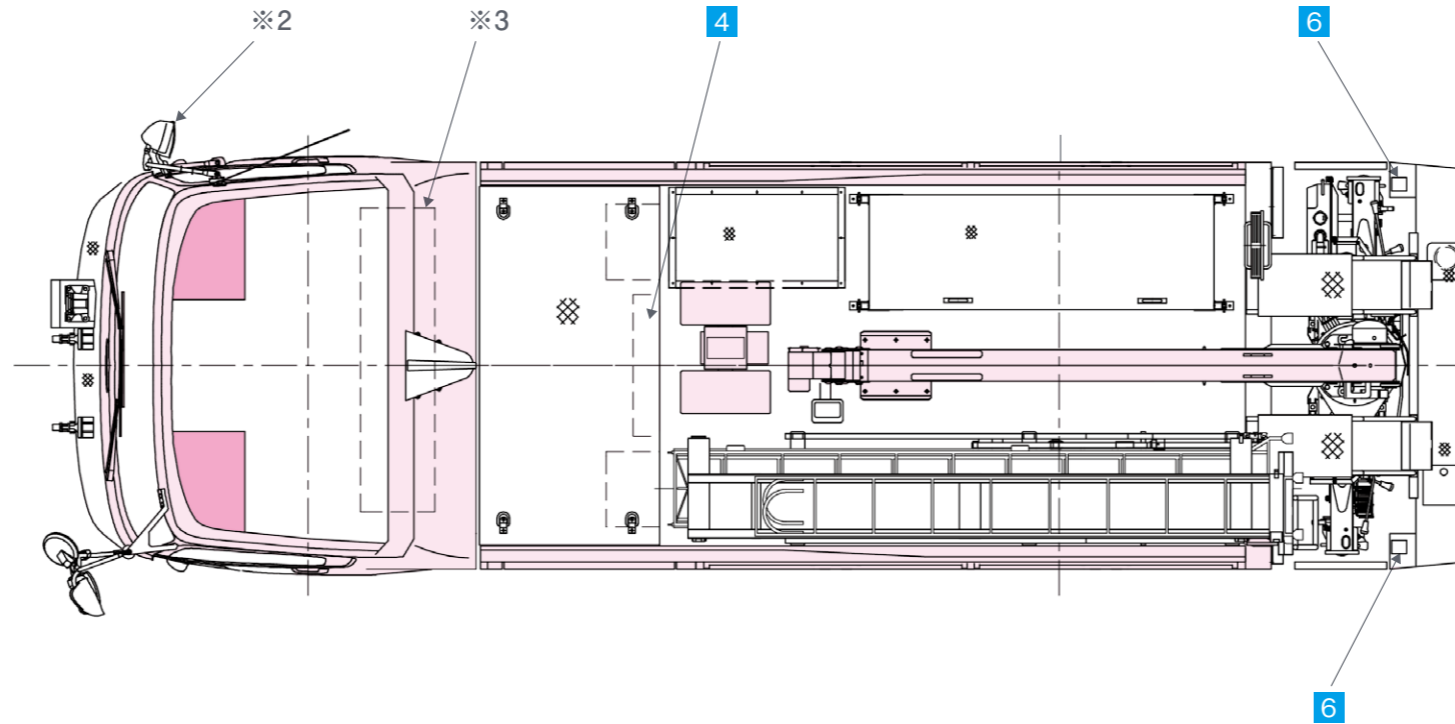
II 作業性の向上



**災害支援時効果大**

もちろん、通常の地域内救助活動にも、大いに効果を発揮します。

※1 潜在要望  
本人も気づいていない要望



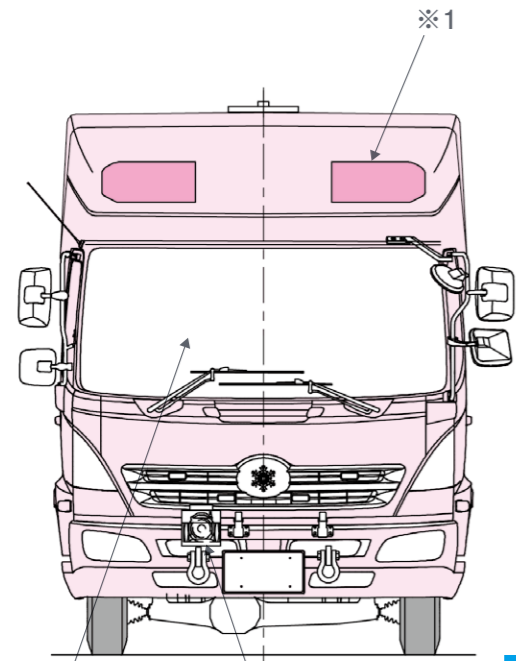
## ■主な特長

I 居住空間と環境の向上

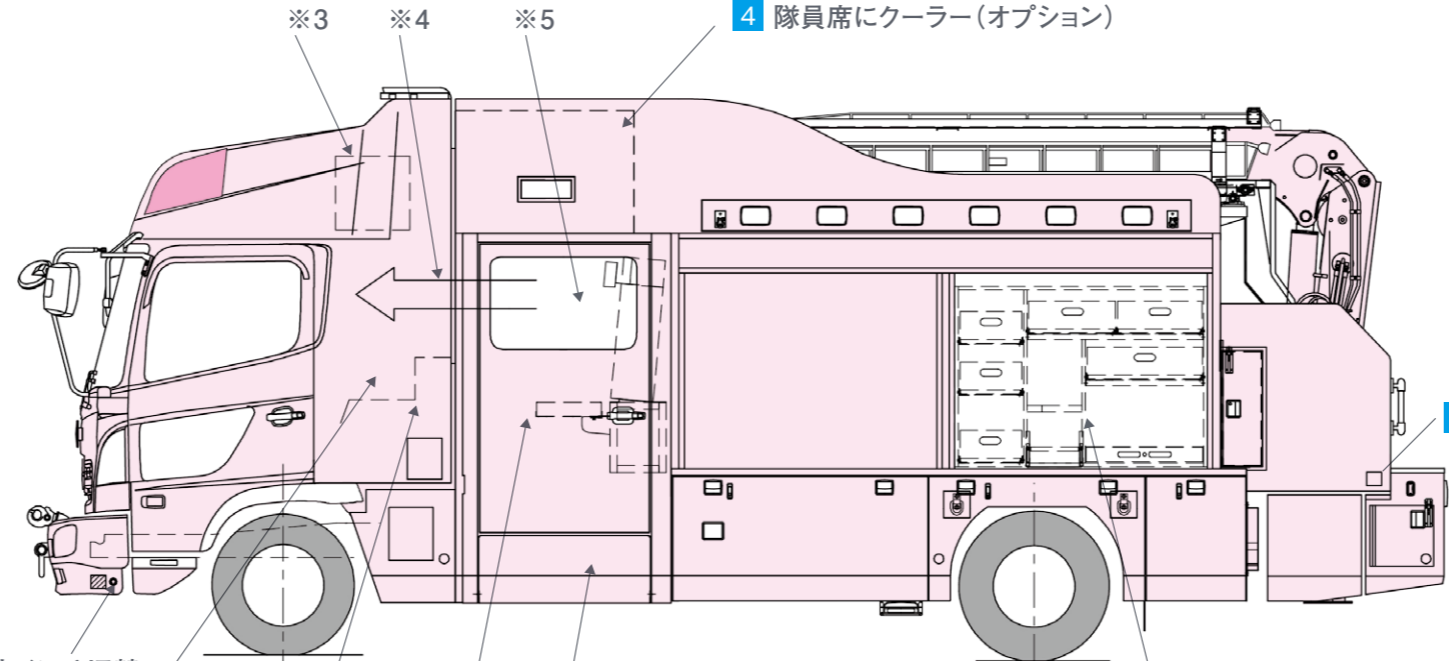
- 1 ワイドハイルーフキャブ
- 2 前キャビン後部にユーティリティスペース
- 3 積載庫前端に隊員席ワイドハイルーフ
- 4 隊員席にクーラー

II 作業性の向上

- 5 ロツラーウインチ新コントロール方式
- 6 クレーン、ウインチ切替スイッチ方式
- 7 新型積載枠



1 ワイドハイルーフキャブ

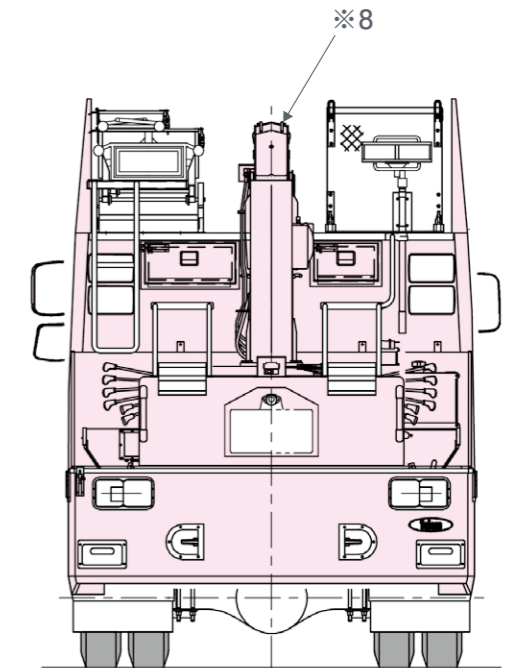


6 クレーン、ウインチ切替スイッチ方式 (オプション)

2 前キャビン後部にユーティリティスペース

3 積載庫前端に隊員席ワイドハイルーフ

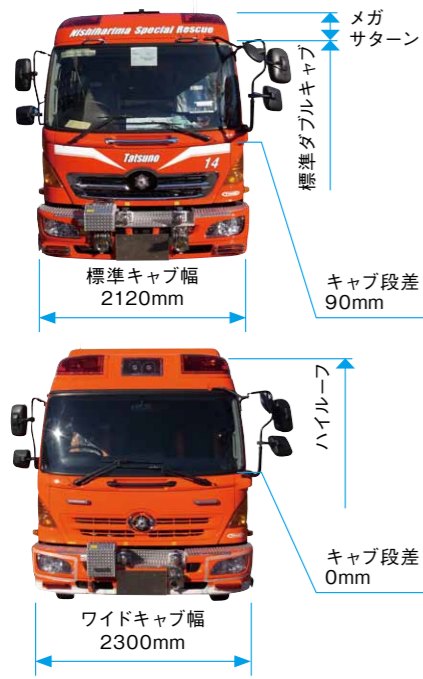
7 新型積載枠



### ※印

- 1. FRPハイルーフをくり抜き、赤灯等埋込
- 2. 後方視認性向上 (ワイドキャブによる)
- 3. 棚 (左右通し)
- 4. 後席から前方を見通せる (座席位置低い)
- 5. 後席パワーウインド (4ヶ所連動ドアロック可)
- 6. 元々のキャブバックライン
- 7. 自動展開ステップ (ドア開閉連動)
- 8. クレーンは直進型、屈折型、いずれも対応可

1 ワイドハイルーフキャブ



キャブ幅2120→2300mmにより前キャビン室内幅は約200mm広くなります。

2 前キャビン後部にユーティリティスペース



○ダブルキャブ



○HX

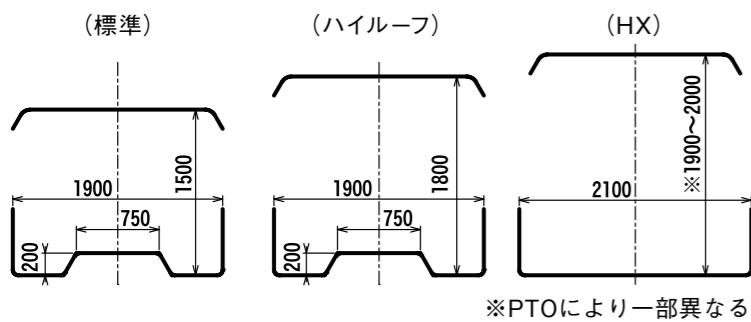


3 積載庫前端に隊員席  
ワイドハイルーフ

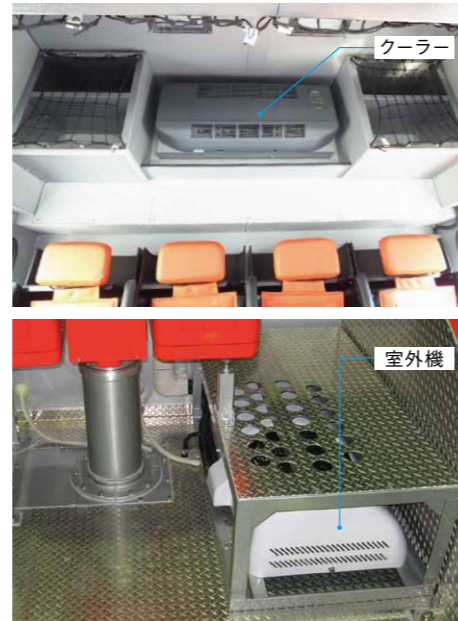


立ち上がっても上方の空間が広く、圧迫感が少ない。

○隊員席断面寸法



4 隊員席にクーラー(オプション)



夏場、シャシ本来のクーラーでは能力不足。バッテリー方式のクーラーを設置。一般のバン車等で多く使われている。  
 ・電圧低下すると自動停止  
 ・エンジンをかけておけば安心

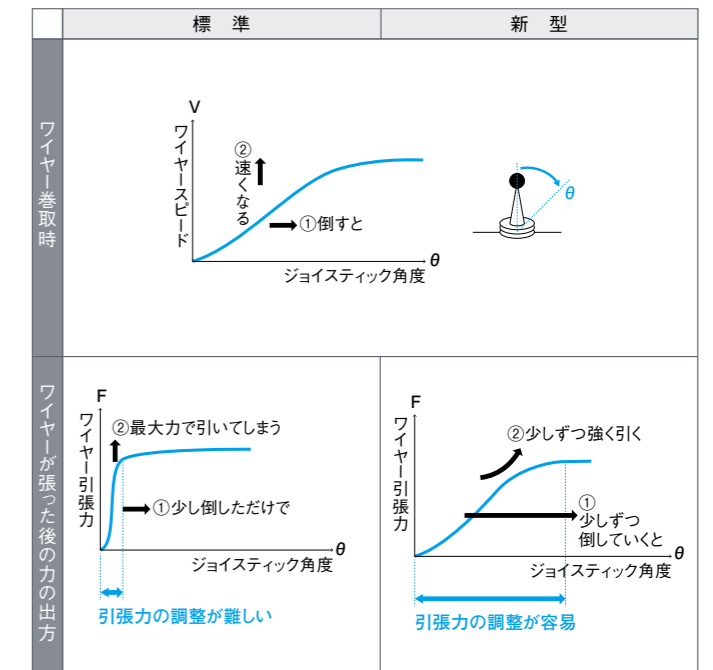
5 ロツラーウインチ 新コントロール方式 (オプション) 特許出願中

コントロールをより一層人間の感覚に近づけました。

これまでの微妙なワイヤー巻取スピード調整に加え、ワイヤー引張力もジョイスティックで微妙にコントロールできるようになりました。さらに、リモコンコネクタもワンタッチで接続でき、緊急時、より一層素早い活動が行えます。



○コントロール方式の違い



6 クレーン、ウインチ切替  
スイッチ方式 (オプション) 特許出願中



※1 切替スイッチ  
 これまでは車両後方の切替レバーにより、クレーン、ウインチの切替操作をしましたが、このスイッチを倒すと、すぐ作業できます。  
 ※2 クレーンスピードコントローラー  
 クレーン操作時、このダイヤルを廻して、クレーンスピードを調整できます。

7 新型ステンレス製積載枠



積載枠はオールステンレス製。塗装していないため、資機材の出し入れ時の塗装ハガレの心配はありません。庫内色はライトグレー、扉はアルミでアルマイト加工とし、色の一体感を出しました。



各棚はボルト止めとし、後々の購入機材に合わせて移動可能としています。